

令和2年度モニター通信における意見及び回答⑯

意見

【教育・歴史・文化】伊東市新図書館に望むこと（要旨）

新図書館の建設について、以下のとおり提言します。

1 博物館（郷土資料館）を新図書館内に常設する。

- (1) 伊東に関係した偉人・出身者を紹介（北里柴三郎、東郷平八郎、伊東祐親など）
- (2) 伊東の生活の歴史を常設展示（縄文土器等の市内各遺跡から発掘された遺物、民話、方言など）
- (3) 伊豆半島ジオパークのジオスポットを紹介（位置図、写真、DVDを制作し常設）
- (4) 伊東に関する小説・映画・民謡・童謡・歌謡曲・漫画を紹介（幸田露伴、川端康成など）
- (5) 「目で観て、耳で聴いて、郷土を知ろう！！」郷土資料館の運営
 - ①(1)～(4)に関する講演会・コンサート・語る会等のイベントを図書館が主催
 - ②各専門家によるセミナーの実施
 - ③「郷土資料館案内人」を登録または雇用し、館内を案内する
 - ④「郷土資料館案内アプリ」を制作し、専門家の解説を聞きながら館内を鑑賞できるようにする
 - ⑤読み聞かせは、幼児・小学生・中学生・高校生・大人と世代別に開催、また市内各地で「出張読み聞かせ会」を開催する

2 民間図書館と連携する。

新図書館、市内保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校の図書室及び各コミュニティセンター図書室、民間図書館などのすべての蔵書を共有化し、市民がデータ検索できるようにしてほしい。

回答

新図書館建設に向けた貴重な御意見をいただき、誠にありがとうございます。

これまで「図書館・文化ホール建設に向けた検討会」や「未来ビジョン会議」、「タウンミーティング」、「市民ワークショップ」等、様々な場面において皆様からいただきました御意見を踏まえ、新図書館に必要な機能を分類化し、拡充する方向性を確認しております。

拡充する機能のうち、「伊東市情報センター機能」として、伊東市にゆかりのある人物の関連資料や、温泉やジオパークにまつわる資料等、伊東市の特徴的な歴史や文化を知ることが出来る貴重書や郷土資料の展示のほか、様々な情報を市内外に発信する機能の設置についても、検討を進めていく方向です。具体的な内容につきましては、基本構想策定後の基本計画等にて議論し、検討してまいります。

なお、当該機能を、博物館として設置することについては、博物館法が示す定義を満たす必要があることから、汎用性や運営費用を考慮しながら、本来の図書館機能にかかる経費との兼ね合いを見据える中で、同様に検討を重ねてまいります。

また、民間図書館や既存の公共施設との連携につきましては、市民ワークショップでの御意見を受け、市全域に図書館サービスを提供するための新たな図書館サービス網の構築として検

討する方向性も確認しております。具体的な内容につきましては、上記同様、基本計画等にて議論してまいります。

新図書館の建設にあたっては、建設後、半世紀以上に渡って、利用者の皆様に創造拠点となる図書館として、各種サービスを提供し続けていくべきであるとの認識から、より良いものを作りたい一心で進めております。現在、議論の終盤を迎えている基本構想では、今までいただきました多くの御意見を精査し、また、全国的な指標である「図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成24年12月19日文部科学省告示第172号）」に基づき、拡充するサービスと、そのサービスを提供するための施設規模の方向性をまとめ、新図書館像を描いております。今後、当該基本構想を基に、市の財政状況等を勘案し、建設、運営可能な具体的な内容について、基本計画等にて検討していく予定ですので、引き続き、御理解、御協力をお願いいたします。

担当：生涯学習課 生涯学習係 電話：32-1961